

高齢者の選択する移動手段を比較し、IADL低下との関連を分析しました

データ

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査、要介護認定情報・被保険者情報を組合せたデータベースを構築

対象

2016年時に要支援・要介護認定を受けていない豊明市在住の65歳以上を3年間追跡

*1 男性3,823人(平均年齢73.4±5.65),女性4,422人(平均年齢73.1±5.66)

評価指標

IADL*2が2016年から2019年で低下したか否か*3を評価



*2 IADL(手段的日常生活動作, Instrumental Activities of Daily Living),老健式活動能力指標を採用

*3 4点以下を低下リスクなし, 5点以上を低下リスクありと判定

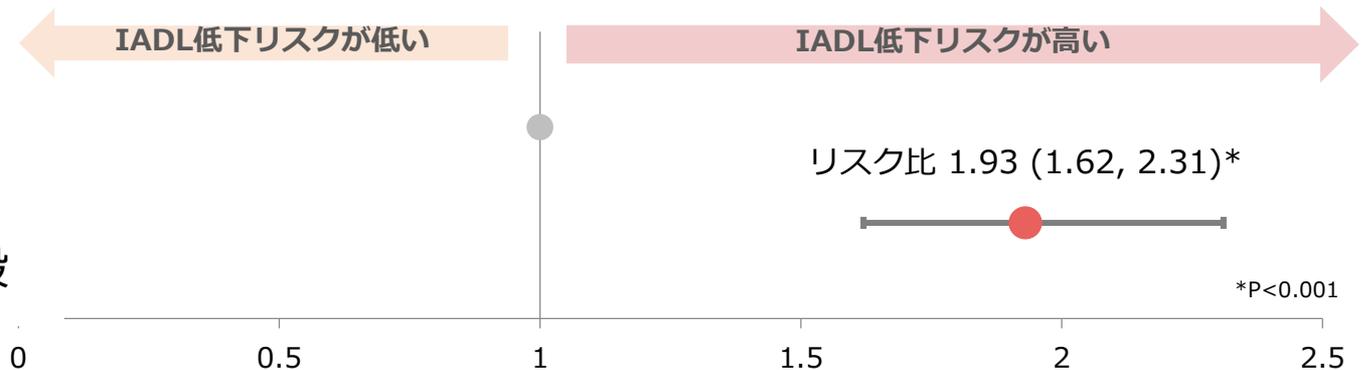
比較

外出時の移動手段に応じて「**能動的**移動手段」「**受動的**移動手段」とのグループに分類



*3 その他、シニアカー、自転車、バイク、電車

性別や2016年時点の年齢, 教育歴, 家族構成, 主観的経済困窮感, BMI, 喫煙, 認知機能低下, 慢性疾患数、**IADL低下リスクの有無**を傾向スコアマッチングを実施



結果

受動的移動手段は**能動的**移動手段と比較して **IADL低下リスクが 1.93 倍**

